

# 学びの創造

平成 25 年が終わろうとしています。今年を表す漢字は、「輪」でした。予想通りでしたでしょうか？

秋田大学は、来年改組を行い 4 学部へと変わります。また、教職大学院を平成 28 年度に設置する方向で進んでいくことになりました。しばらくは激動の時代を迎えます。そんな変革期だからこそ、それぞれの知恵を持ち寄ってつながる「輪」を大切にしたいところです。

## ★学校支援事業の実施経過

### 研修推進アドバイザー事業<特別支援教育>

本事業の一環として、今年度も特別支援教育に関する研修会を県内各地域で実施しました。12 月現在、4 つの市町教育委員会の要請を受け、小・中学校の教員及び特別支援教育支援員（学習・生活サポーター）を対象として開催し、合わせて 88 人が参加しました。研修会では、子どもの特性等の理解と具体的な支援の在り方、ユニバーサルデザインによる授業などに関する講義、「子どもの理解や支援の在り方」をテーマとしたワークショップ型協議などで構成しています。特に、協議では各グループに地域の特別支援学校教員をアドバイザーとして配置することで、5~6 人の小グループに分かれた参加者による活発な意見交換や事例紹介、質問等が多くみられました。

また、3 月に作成した「支援の必要な子どもたちのための支援事例集」を参加者全員に配布して、今後の支援に役立てていただけるようにしています。

参加者からは、「具体的な指導や支援の場面について参観してみたい」、「このような研修会の機会を増やしてほしい」などの要望が多数寄せられました。なお、本事業は冬季休業中も引き続き開催する予定です。



## ★教育実習 事前事後指導の成果報告会

平成 25 年度教育実習事前事後指導の最終会（成果報告会）が、10 月 24 日に秋田大学教育文化学部内で行われました。「附属学校と公立学校における教育実習の成果と課題」というテーマのもと、学校教育課程の 3 年次、地域科学・国際言語文化・人間環境課程の 4 年次がポスター発表しました。附属学校と公立学校で過ごした具体的なエピソードをもとに、実習を通して身についた力、自信を得たこと、新たに気づいた課題などが報告されました。発表されたポスターの一部は、11 月末まで教育文化学部のピロティーに設置していましたが、12 月以降は教育実践研究支援センターの掲示板に異動し、年度末まで掲示する予定です。学生たちが頑張ってまとめた成果ですので、ぜひご覧ください。

### 大学院教育学研究科の募集

大学院教育学研究科は、先生方が直面している課題を対象化して深く考えたり、先進的な知識や技術を身につけたりすることを通して、教師としてより高度な能力を身につけることを支援します。新しい教員免許状の取得も可能です。

#### ■募集要項の配布と試験日程

出願期間：平成 25 年 12 月 19 日～26 日

試験期日：平成 26 年 1 月 25 日（土）

問い合わせは、018-889-2512(大学院担当)まで



## ★たまご教師の奮闘記③ 学校教育課程 教科教育実践選修 1年 花田ありさ

### 児童館でのボランティアを経験して

小学校とは何のための場所なのかということを考えたとき、勉強をする場所であるのはもちろんですが、人間関係を学ぶ場所でもあるということ、今回の教育実地研究で強く感じました。それを手助けしているのが児童館なのだと思います。小学校とは違い、主に遊ぶことが多い児童館では、児童同士の直接的な関わりが必然的に多くなってきます。その中で衝突が起こってしまうことは仕方がないことです。教育実地研究中にもそのような場面に遭遇することがありました。私は正直戸惑ったのですが、成り行きを見守っていると、他の子どもが入って解決しようとします。このようなことを何度も経験し、成長していくのだと感じました。私は今回何もできませんでしたが、喧嘩など衝突が起こったときに大人がどう対応するかということは、子どもの成長に直接関わることであり、子どもの一部となります。子どもたち本人の気持ちやその時の周りの環境を考慮して、適切な対応をしていきたいと考えました。

このように考えさせられたことや学んだことも多々あった教育実地研究ですが、普段関わることのない小学生と関わったということでもやはり楽しかったです。これを経験する前は小学生と触れ合うことに多少不安はあったのですが、純粋で素直な子どもたちと、2～3時間ずつですが数日間関わったことで、その不安はなくなりました。また、来年度の教育実習に対しても、楽しみという気持ちが大きくなりました。実際の現場で学ぶことは多々あると思います。今回の経験も生かして、より充実した教育実習にしたいです。

## ★大学・大学院における研修を経験して③ 秋田県総合教育センター研修員 關友明

4月から学校現場を離れて秋田県総合教育センターの研修員となって、早いもので9か月が過ぎました。教育センターの研修員制度は、1年間のセンター内外での研修を通して、教員としての専門性と授業力の向上を図り、学校や地域における教育活動の推進者の養成を目的としたものです。今回、研修の一環として、秋田大学大学院の授業科目を受講させていただくことができました。

受講させていただいたのは、姫野完治先生の「授業分析・研究」の講座でした。今年度は受講者が3名と少数だったため、講義室から姫野先生の研究室へと場所を移して授業を行うこととなりました。美味しいコーヒーをいただきながら、授業研究や校内研究の方法、教師のキャリア発達等について、ディスカッションを通して深めていく授業は、ただ知識を得るだけではない豊かで楽しい時間でした。

受講者の中に他にも現職の高校籍の先生がいらっしやったことから、特に高校における研修の活性化も授業の大きなテーマとなりました。話し合いは毎回非常に活発なものとなり、自分にとって、多くの実践的な知見を得るとともに、研修をどのように位置付け、関わっていくべきか捉え直すことができました。また、現職教員の意識や経験についてお互いに聞き取り調査をしたり、高校の多様性について資料を調べたりする中で、自分自身の教師生活や教職に対する思いを振り返り、改めて教師の魅力を確認することもできたことは、驚きでもあり、また大きな収穫でもありました。

約20年ぶりとなる学生生活は、学校にはなかなか経験できない豊かな学びの時間でした。そしてまた、今後の教員人生を支えてくれるであろう大変有意義な経験となりました。前期だけしか受講できなかったのが残念ですが、学校に戻った際にはこの経験を子どもたちや学校、先生方に還元していきたいと思っています。最後に、このような研修の機会をいただけたことに深く感謝申し上げます。

